

平成 26 年度 公益財団法人山形市文化振興事業団 事業計画

1 山寺芭蕉記念館事業

(1) 展示事業

①企画展「収蔵名品展」(6月12日～7月15日)

収蔵品の中で芭蕉・蕉門資料以外の⑩長谷川コレクション、⑪長谷川コレクション、⑫頼原退蔵・尾形仿コレクションなどの貴重な収蔵品を一般公開して文化の向上に寄与する。

②企画展「(仮称)妖怪と文学・美術」(7月18日～8月25日)

芭蕉が生きた時代も含めて文学や美術の題材となってきた妖怪をテーマとして資料を紹介する。それにより、妖怪が芭蕉を始めとする俳人、画家らの表現にいかに関与を与えてきたかを探ることにより日本文化を理解する一助とする。

③企画展「(仮称)俳画の歴史と美」(10月2日～11月10日)

俳句・書・絵画が一体となった俳画には日本独自の美意識が映しだされている。俳画の祖とされる立圃から芭蕉、蕪村、そして近代の俳人まで俯瞰することにより、俳画の歴史を学ぶ機会とし、俳句表現の魅力を紹介する。関連事業として「山寺からの祈りコンサート」の開催。

④企画展「市民企画展」(12月17日～1月18日)

市民の団体から発案された企画によって、市民の収蔵品、作品を展示する。企画は募集の上、応募企画案の中から選考する。

⑤企画展「お雛さまの歴史と美」(2月19日～4月6日)

江戸時代の雛人形を中心に展示。雛人形や桃の節句の歴史とその美術を紹介し、日本文化の美を考え、芭蕉がふれた文化の一端を理解する一助とする。

⑥常設展 (企画展以外の期間)

常設展の中で松尾芭蕉について、その実像と業績を伝える。また、収蔵品の中から各種テーマを設け、それに合わせて資料を活用して資料でテーマ・コーナーを設置する。

①「テーマ展示」

各種テーマを設け、それに合わせて収蔵品から選出した資料でテーマ・コーナーを設置することで、展示を多彩な内容で構成して作品の魅力を引き出す。

②「(仮称)山大博の古文書展」(11月-1月)

山形大学附属博物館と共同で展覧会を企画し、博物館の収蔵資料から古文書を中心に選定し展示紹介する。

(2) 普及啓発事業

①第57回全国俳句山寺大会(7月13日)

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。

②第6回山寺芭蕉記念館英語俳句大会

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的とする。

③第45回芭蕉忌俳句大会(10月下旬予定)

俳句の普及と振興をはかるため、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④第24回山寺芭蕉記念館文化セミナー(7~8月頃)

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかると共に新たな視点を提示する。

⑤芭蕉を偲んで投句しよう(通年)

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、投句選を行う。

⑥山寺芭蕉記念館子ども俳句道場(通年)

芭蕉を偲んで投句しようの小中学生版として実施する。俳句を通して松尾芭蕉や山寺、山寺芭蕉記念館への理解を深める機会とする。

⑦ITに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を

発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開していく。また、山寺芭蕉記念館と最上義光歴史館をインターネットで繋ぎ、事務の効率化をはかる。

⑧『山寺 芭蕉記念館だより』〔年1回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の公開を行ない山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

⑨市民茶会（通年）

抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。

⑩茶房 芭蕉堂（通年、但し市民茶会開催日を除く）

抹茶の呈茶を常時行ない、茶道文化に親しむ一助とする。

⑪山寺感謝の茶会（11月頃）

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。

2 最上義光歴史館事業

(1) 展示事業

① 企画展「市民の宝モノ 2015」展 【継続企画】 (1月-4月)

山形市民を対象に、所蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館で選考して展示し、広く一般に公開する。市民参加型の展覧会として毎年継続的に開催する。

② 常設展示

最上義光を主とした最上家関係資料と山形城関係資料、山形に関わる文化財などを展示紹介しながら下記のテーマで一部コーナー展示を行う。

① 「(仮称) 武士の晴れ姿」(4月-7月)

源平合戦図屏風や甲冑などを展示し、武士の晴れの舞台である戦の様子と武士の晴れ着と称される甲冑を展示し武士の晴れ姿を演出する。

② 「鐵の美 2014 ～武士[mononofu]と日本刀～」(7月-11月)

収蔵刀剣の公開を行い、武器であり美術品でもある日本刀の美しさを紹介する。

③ 「(仮称) 山大博の古文書展」(11月-1月)

山形大学附属博物館と共同で展覧会を企画し、博物館の収蔵資料から古文書を中心に選定し展示紹介する。

(2) 普及啓発事業

① 歴史講座

① こども講座

山形市内の小学校に出向き、最上義光を中心に郷土の歴史や文化を学ぶ機会をつくり、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心の育成を図る。

② 親子歴史講座

夏休み・冬休みの期間に歴史館を会場にして親子で最上義光を中心に郷土の歴史や文化を学ぶ機会をつくり、郷土史に対する関心と理解を深める。

②ボランティアに係わる事業

最上義光と最上家を啓蒙することについて歴史館とともに活動する市民が、ボランティアという形で歴史館のサポーターとなって、来館者の多様化するニーズに応え、きめ細かなサービスの提供を図るとともに、歴史館を核としたコミュニティーを創出する。

①「義光塾」〔年5回〕

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で接遇が可能となるようにスキルアップを図る。

②「現地研修会」〔年1回〕

最上家や郷土の歴史に関する史跡等を現地研修し、現地に赴くことによりボランティアが郷土史と文化財に対する知識と理解を深め、来館者に対してより質の高い接遇が可能となるようにスキルアップを図る。

③ITに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開していく。

④『館だより』の発行〔年1回〕

事業報告や考察、山形の歴史や最上家に関する情報を広く一般に提供し、最上義光歴史館の文化活動に対する理解を求めることを目的とする。

(3)調査研究事業

①最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

